

診療のご案内

診療科目	診療時間	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
		医師名	専門外来	医師名	専門外来	医師名	専門外来	医師名	専門外来	医師名	専門外来
内科 (予約制)	9:00~11:00	松本 都 谷口陽介 山田健嗣 黒田 豊	消化器内科 循環器内科 脳神経外科 腎臓内科	野村基子 森田和子 北川友通 丹治英明 萩原莉恵 森 穂波	呼吸器内科 神経内科 脳神経外科 腎臓内科 (CAPD外来)	松本 都 小森健二郎 吉田昌史 吉田奈々絵	消化器内科 呼吸器内科 糖尿病内科 循環器内科	菅原養厚 進士弥央 田中 博 吉田昌史 森田和子	循環器内科 糖尿病内科 呼吸器内科	黒木昌寿	糖尿病内科
	14:00~16:00	川上 務 山田健嗣 黒田 豊	呼吸器内科 脳神経外科 腎臓内科	野村基子 萩原莉恵 吉田奈々絵	肺癌2次 糖尿病内科 循環器内科	齊藤一美 森 穂波 木本瑞穂 牧 尚孝	消化器内科 腎臓内科 糖尿病内科 循環器内科	菅原養厚 進士弥央 田中 博 森田和子 睦好祐子	循環器内科 糖尿病内科 呼吸器内科 腎臓内科	松本 都 森 穂波 黒木昌寿 森 穂波 山下博史	消化器内科 腎臓内科 糖尿病内科 腎臓内科 神経内科
初診外来	9:00~11:00	黒木昌寿 森 穂波 吉村一樹	初診外来	黒田 豊 菅原養厚 黒木昌寿	初診外来	黒田 豊 吉野 望 小熊妙子	初診外来	黒田 豊 黒木昌寿 河村匡捷	初診外来	黒田 豊 吉田奈々絵 山下博史	初診外来
小児科	9:00~11:00	中村明夫 加賀文彩 百村芽衣	小児科一般	中村明夫 加賀文彩 笠神崇平	小児科一般	中村明夫 加賀文彩 百村芽衣	小児科一般	中村明夫 加賀文彩 百村芽衣	小児科一般	中村明夫 加賀文彩 笠神崇平	小児科一般
	15:00~16:00 予約制	中村明夫 加賀文彩 笠神崇平	小児科一般	中村明夫 加賀文彩 笠神崇平	小児科一般	中村明夫 加賀文彩 笠神崇平	小児科一般			加賀文彩 笠神崇平	小児科一般
	15:00~16:30 予約制					中村明夫 臨床発達心理士	生活習慣病 カウンセリング (第1,第3)			占部良介	小児神経 (第1,第3)
	予約制	予防接種 (13:30~14:30)	乳幼児健診 (13:30~14:30)	乳幼児健診 (13:30~14:30)	乳幼児健診 (13:30~14:30)	予防接種 (13:30~14:30)	乳幼児健診 (13:30~14:30)	予防接種 (13:30~14:30)	乳幼児健診 (13:30~14:30)		
外科	9:00~11:00	植松武史 塩川洋之	消化器・ 外科一般	神宮和彦 山崎信人	消化器・ 外科一般	塩川洋之 岡田 嶺	消化器・ 外科一般	植松武史 神宮和彦	消化器・ 外科一般	岡田 嶺 山崎信人	消化器・ 乳腺外科
整形外科	9:00~11:00	坂口勝信	肩関節			飯塚秀樹 寺山恭史	脊椎・腰痛・ 狭窄症 手の外科	平沼浩一 伊藤賢太郎	整形外科 一般	正田健太	整形外科 一般
	14:00~15:00	坂口勝信 伊藤賢太郎	肩関節 骨粗鬆症	田中伸哉 伊藤賢太郎	変形性膝・股関節 症・骨粗鬆症 スポーツ整形	飯塚秀樹 寺山恭史	脊椎・腰痛・ 狭窄症 手の外科	平沼浩一 伊藤賢太郎	整形外科 一般	田中伸哉 関端浩士	人工関節 スポーツ整形
皮膚科	9:00~11:00 14:00~15:00	山田朋子 山田朋子	皮膚科一般	大瀧 薫	皮膚科一般	山田朋子 大瀧 薫	皮膚科一般	山田朋子 大瀧 薫	皮膚科一般	大瀧 薫 山田朋子	皮膚科一般
泌尿器科	9:00~11:00	前田重孝 中條 洋	泌尿器科 全般	交代制 中條 洋	泌尿器科 全般	前田重孝 中條 洋	泌尿器科 全般	田中晴郎 前田重孝	泌尿器科 全般	田中晴郎 中條 洋	泌尿器科 全般
婦人科 (予約制)	10:30~12:00 水曜13:30まで 14:30~16:00	三澤将大 三澤将大	婦人科			柴田あずさ	婦人科	堀内 功 西林 学	婦人科	今野 良 小池信行	婦人科
眼科	9:00~11:30	小池信行 田口 諒	眼科一般	小池信行 田口 諒	眼科一般	小池信行 田口 諒	眼科一般	田口 諒	眼科一般	小池信行 田口 諒	眼科一般
耳鼻咽喉科	9:00~10:00 14:30~16:00 予約制	澤 井洋 澤 井洋	耳鼻咽喉科一般	吉田尚弘	耳鼻咽喉科一般	吉田尚弘	耳鼻咽喉科一般	島崎幹夫 江洲欣彦	耳鼻咽喉科一般	柳原太一 柳原太一	耳鼻咽喉科一般
放射線科 (予約制)	9:00~11:00 14:00~16:00		画像診断 MRI・CT予約制	画像診断 MRI・CT予約制	画像診断 MRI・CT予約制	画像診断 MRI・CT予約制	画像診断 MRI・CT予約制	画像診断 MRI・CT予約制	画像診断 MRI・CT予約制	画像診断 MRI・CT予約制	画像診断 MRI・CT予約制
口腔外科 (予約制)	9:00~11:30 (初診~11:00)	鈴木 茂 林 勝彦	口腔外科 全般	鈴木 茂 押岡弘子	口腔外科 全般	鈴木 茂 高山岳志	口腔外科 全般	鈴木 茂 土屋絵美	口腔外科 全般	鈴木 茂 渡邊豪士	口腔外科 全般
	13:30~16:00	鈴木 茂 林 勝彦	口腔外科 全般	鈴木 茂 押岡弘子	口腔外科 全般					鈴木 茂 渡邊豪士	口腔外科 全般

* 検査・診療予約は、地域医療連携室まで電話かFAXにてご連絡ください。(受付時間 8:30~17:00) (土日祝日休み)
* 時間外診療は、日当直医師に取り次ぎ、出来る限り対処させていただきますが、専門医がいない場合は、お受け出来ない場合もありますのでご了承ください。
* 常勤医師名には黄色のラインを付けています。

▶ 近隣医療機関の先生方へ

当院では先生方ご希望される専門診療科をご案内いたします。その際、最新の担当医表で診療科の日時をご確認ください。
もし患者さんご都合等で、その他の時間帯に受診される場合には、可能な限り当該科の専門診療科医が診察する体制となっておりますが、場合によっては他の担当医が診察することをご了承願います。

きたまち

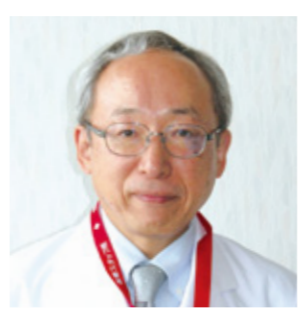


- INDEX
- 01 ■ 病院代表者より
 - 02 ■ 小児科のご紹介
 - 05 ■ 連携医療機関のご紹介 細井クリニック 細井 英雄 院長
 - 06 ■ 診療担当医表



病院代表者より

JCHO さいたま
北部医療センター
院長



黒田 豊

診療科 内科、腎臓内科、
総合診療科
出身大学 自治医科大学
卒業年 昭和57年

を生じましたが、大規模なクラスターには発展せず、今までCOVID-19入院医療と一般入院医療を両立させることができいております。日々感染対策に取り組んでいる職員に敬意を表したいと思います。

新型コロナウイルス感染症は第5波が収まり、新規感染者数も減少し、昨年4月以降コロナ専用病棟として運用していた6階病棟も10月12日にCOVID-19入院患者数が初めて0名になりました。この1年半の間にCOVID-19入院患者481名を受け入れ、発熱外来・帰国者接触者外来で多くの患者さんのPCR検査を実施しました。小児科外来も新型コロナウイルス感染症に対応できるように内科外来感染対策出入口から直接小児科外来に行けるように壁を取り壊し通路を作って対応してまいりました。正面玄関では来院者全員の体温測定などのトリアージを行い院内感染防止に努めてまいりました。おかげで今年2月に小規模な院内感染

このまま新型コロナウイルス感染症が終息してくればいいのですが、残念ながら冬になると第6波がくると予想されております。当院は発熱外来や帰国者接触者外来は現在の体制を継続し、コロナ専用病床確保に関しては入院依頼があった時の即応体制をとりつつCOVID-19以外の入院患者受入を徐々に拡大しているところです。地域の先生方から入院の依頼があった時に満床でお断りすることが無いようにベッドコントロールを行ってまいります。

今月の「さいたま北部医療センターだより『きたまち』」では小児科中村部長から小児科の紹介を掲載させて頂いております。生活習慣病外来、腎臓泌尿器疾患外来や遺伝外来など特色ある外来の紹介ですので、是非御一読いただき対象患児のご紹介をお願い申し上げます。



掲載内容についてのご相談・ご質問は、下記までご連絡ください。
さいたま北部医療センター 地域医療連携室 TEL. 048-653-7858 (直通) FAX. 048-613-3925

Saitama Northern Medical Center

小児科のご紹介

当院小児科は、常勤3名の他、非常勤医師1名、臨床心理士1名で構成され、すべての小児に関する疾患を外来診療で対応しています。この一般外来の枠組みで、アレルギー性疾患の診断治療に取り組んでおり、食物負荷試験・スギダニアレルギー舌下免疫療法を実施しています。また、海外渡航等のための英文証明書・診断書の依頼も受け付けています。当科の特色としては、専門外来として、生活習慣病外来、腎臓泌尿器疾患外来、小児神経外来（痙攣疾患・発育発達評価など）、心理外来（こころの問題・不登校・発達障害など）、遺伝外来を設けていることです。

生活習慣病予防治療外来

■毎週水曜日 15時から17時（30分毎の予約）

次世代を産み育てる成人世代に生じる生活習慣病（肥満、糖尿病、高血圧、高脂血症、高尿酸血症）を、乳児、幼児、学童、思春期から連続的、包括的に予防治療することを目的とした外来です。

生活習慣病は、もともとの体質や疾患が背景にあり、さらに日常の生活習慣が強く影響して発症します。この外来は、子供の現在および将来の生活習慣病対策のために、以下の対象者を中心に診断・予防・治療を行います。

対象者：乳幼児から高校生。

- 1 学校検診（さいたま市生活習慣病・腎臓検診）における精密検査該当者
- 2 高血圧・肥満・糖尿・腎臓泌尿器疾患を既に指摘されている子供。

- 3 高血圧・肥満・糖尿病の家族歴があり子供の将来の発症を心配する家族。特に高脂血症（高コレステロール血症）の家族歴のある方や、50歳以下に脳血管疾患・心臓病を罹患した家族がいる小児。
- 4 高血圧・肥満・糖尿病に関連しやすいステロイド薬などの薬物使用者経験者。

診療内容

- 1 精密検査結果に基づき病名診断と生活管理表の作成。
- 2 個々の病態に応じた経過観察と検査・診断、薬物治療および食生活指導。
- 3 高血圧・肥満関連遺伝子多型に基づいた個別化医療の提供。
- 4 家族全体で取り組むため機会提供および社会的啓蒙活動。

なお、当科は大宮地区の学校生活習慣病検診精密医療機関の指定を受けています。

JCHO さいたま
北部医療センター

中村 明夫

診療科 小児科
出身大学 島根医科大学
（現：島根大学）
卒業年 昭和57年



腎臓泌尿器疾患外来

排尿、尿検査に関わる異常症状・所見すべてに対応します。

また、以下の疾患に関して診断・治療をおこなっています。

- *腎臓疾患：急性糸球体腎炎（高血圧・浮腫など）、慢性糸球体腎炎（紫斑・腹痛・関節痛など）、ネフローゼ症候群（浮腫など）、遺伝性腎疾患（家族歴がある）
- *泌尿器疾患：尿路感染症、水腎症、先天性腎尿管奇

Saitama Northern Medical Center

連携医療機関のご紹介



Vol.14

細井 英雄 院長 細井クリニック

【住 所】埼玉県さいたま市
北区本郷町 152
【TEL】048-663-7131
【診療科】内科・外科・
消化器科・肛門科・
小児科



診療時間表

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	休	○	○	○	休
15:00～18:00	○	○	休	○	○	○ 予約制 13:00～ 16:00	休

休診日 水曜日・日曜日・祝日 ※土曜日の午後は予約制となっております（ただし、変動の可能性がございますので、詳しくはお問合わせ下さい。）

この度、さいたま北部医療センターと協力医療機関として連携協定を締結していただきました。細井クリニックの細井 英雄先生へ日頃の感謝の気持ちを込めてインタビューをさせていただきました。

1 診療案内について

昭和42年の開院以来、2代にわたり地域の患者さんの診療・健康管理に関わってきた地域密着型のクリニックです。内科、外科、消化器科、肛門科、小児科と幅広く診療を受けることが可能となっております。

2 アピールポイントや診療時に心掛けている事について

地域の患者さんの診療・健康管理を担う「かかりつけ医」として、気軽に受診して頂けるようにしたいと考えております。まずは生活習慣病であります高血圧や糖尿病などの管理、そして今までの臨床の経験を活かし専門としている胃・大腸・肝胆膵などの消化器疾患、乳癌などの乳腺疾患、甲状腺疾患の診療に力を注いでおります。またセカンドオピニオンなどについても、予約制で十分に時間をかけて相談を受けたいと考えております。さらに在宅での高カロリー輸液、経腸栄養、在宅終末期医療、人工肛門などについても出来る限り対応したいと考えております。

3 さいたま北部医療センターをどの様な時に、ご利用して頂いておりますか？

CT、MRI、内視鏡検査などをご紹介しており、いつも迅速で適切な情報を頂く事ができます。そして当院は小児科から内科を標榜しており、患者さんの年齢層も広いのですが貴院は小児科から幅広い内科専門診療科がありますのでご紹介をしております。そして当院から一番近い総合病院ですので、患者さんも希望されることが多くあります。次に泌尿器科では、前立腺肥大症地域連携バスをはじめとしたスムーズな連携関係を構築して頂いております。またそれ以外で泌尿器領域の症状で困った時も、貴院にご紹介をさせて頂き、適切な治療をして頂いております。次に私自身も専門としている、消化器領域の症状では緊急性の高い症状も早急にご対応頂き本当に助かっております。また貴院の消化器外科の先生方とは直接、電話でやり取りができ柔軟な対応をして頂いております。さらに貴院眼科で行われている白内障手術が非常に上手と、そして入院させて頂けるのも患者さんから評判の高い声をよく聞きます。

4 当院について何かご意見が有ればご教授ください。

なかなか難しいご要望かもしれませんが、循環器領域の疾患で心筋梗塞や狭心症なども対応して頂ける様になればと思っております。また脳梗塞や脳卒中などの疾患にも対応できる診療体制になって頂けたらと思っております。

5 今後のさいたま北部医療センターへ期待していることが有ればご教授ください。

貴院とは、旧名称である社会保険大宮総合病院の時代から患者さんのご紹介をさせて頂いております。そして新築移転しさいたま北部医療センターとなり感じることは、地域医療連携室の対応が非常に良くなったことを感じております。緊急の症例の相談時にも適切に病状や状況を把握し迅速に対応いただける様になったと思います。上記の様に引き続き、地域の中核を担う病院として迅速な対応をして頂き、ご紹介がしやすい病院として継続していただきたいと思っております。今後とも末永くよろしくお願いいたします。

➤ **遺伝カウンセリングを受けるメリットとは？**

- ①染色体や遺伝子に関する情報がえられ、選択肢の決断に役立った。
 - ②夫婦や家族のコミュニケーション促進に役立った。
 - ③生き方を考えるきっかけになった。
 - ④情報を得て自分なりに理解できたことで、今後の心構えができた。
- などがあります。

2. 遺伝病外来 (主にファブリー病)

ファブリー病とは (小児慢性特定疾病情報センターHP から引用)。

概要・定義

ファブリー病はライソゾームに存在する加水分解酵素の一つであるα-ガラクトシダーゼ活性の低下により、その基質であるグロボトリアオシルセラミドが、血管内皮細胞、平滑筋細胞、汗腺、腎臓、心筋、自律神経節、角膜に蓄積し、腎障害、脳血管障害、虚血性心疾患、心筋症、皮膚病変、四肢末端痛、角膜混濁などを生じる。X染色体劣性遺伝形式をとるが、ヘテロ結合体の女性も発症する。

疫学

典型的なファブリー病の発症率は、欧米人で40000人に1人と推定されていたが、左室肥大や心筋症の中での心ファブリー病の頻度は3~4%とされ、透析患者のスクリーニングでは約1%、台湾での新生児スクリーニングでは約1300人に1人という報告もあり、ファブリー病全体の実際の頻度は10000人に1人くらいではないとも言われている。多くが、学童期までに発症する。

病因

細胞内ライソゾームで機能する加水分解酵素の一つであるα-ガラクトシダーゼ(α-Gal)の遺伝子変異により、酵素活性の低下を来し、その基質であるグロボトリアオシルセラミド(GL-3)がおもに蓄積して全身組織に障害を引き起こす。特に血管内皮細胞、平滑筋細胞、汗腺、腎臓、心筋、自律神経節、角膜などで病変を呈する。

症状

典型的なファブリー病では、幼児期以降もしくは学

童期から生じる手足の痛み(四肢末端痛)や汗をかきにくいこと(低汗症や無汗症)、それによる体温の上昇を認める。その後、蛋白尿や被角血管腫、20代になると角膜混濁、腎障害、脳血管障害、心肥大を認めるようになる。この他、難聴、下痢などの消化器症状、精神症状を認める。学童期までの典型的な症状を呈さずに、成人期になり、心障害のみを認める心亜型や腎障害のみの腎亜型の遅発型がある。ヘテロ接合体である女性患者では、無症状から重篤な臓器障害を有する症例まで、臨床症状は多彩である。

JCHO さいたま
北部医療センター

加賀 文彩

診療科 小児科
出身大学 帝京大学
卒業年 平成16年



形(低形成腎、嚢胞腎、腎盂尿路系異常)

* 検診(学校検診・3歳時健診など)

小児科領域においても成人と同様に慢性腎臓病(CKD)の概念で早期発見・早期治療を進めています。特に以下の所見を認めた場合は更なる検査が必要となります。

- ①3歳児定期検診で蛋白尿(尿試験紙で±以上)を示した場合。
- ②血清クレアチニン値が正常値を越えている場合。
小児では年齢とともに正常値の範囲が変化するため以下をご参考ください。

血清クレアチニン基準値 (mg/dl) 引用改変 (Uemura O et al. Clin. Exp. Nephrol. 15: 694-699, 2011年)

● 3ヶ月以上12歳未満 (男女共通)

年齢	2.5パーセンタイル	50パーセンタイル	97.5パーセンタイル
3~5ヶ月	0.14	0.2	0.26
6~8ヶ月	0.14	0.22	0.31
9~11ヶ月	0.14	0.22	0.34
1歳	0.16	0.23	0.32
2歳	0.17	0.24	0.37
3歳	0.21	0.27	0.37
4歳	0.2	0.3	0.4
5歳	0.25	0.34	0.45
6歳	0.25	0.34	0.48
7歳	0.28	0.37	0.49
8歳	0.29	0.4	0.53
9歳	0.34	0.41	0.51
10歳	0.3	0.41	0.57
11歳	0.35	0.45	0.58

● 12歳以上17歳未満 (男女別)

年齢	2.5パーセンタイル		50パーセンタイル		97.5パーセンタイル	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児
12歳	0.40	0.40	0.53	0.52	0.61	0.66
13歳	0.42	0.41	0.59	0.53	0.80	0.69
14歳	0.54	0.46	0.65	0.58	0.96	0.71
15歳	0.48	0.47	0.68	0.56	0.93	0.72
16歳	0.62	0.51	0.73	0.59	0.96	0.74

JCHO さいたま
北部医療センター

笠神 崇平

診療科 小児科
出身大学 帝京大学
卒業年 平成15年



遺伝外来

1. 遺伝カウンセリング外来

遺伝性疾患とはゲノム(染色体・遺伝子)の変化が原因となる疾患のことであり、このゲノム情報を解析する検査を遺伝子関連検査といいます。最近この解析技術の進歩により、ゲノム情報を診断・治療に生かすことが可能となり、遺伝性疾患の診断と治療が飛躍的に進歩しました。しかしながら、これらの技術が進歩しても、ヒトの心や教養がそれについていけない場合もあり、検査結果の説明や治療の選択に関して個人としての判断ができるだけの知識をもつ必要がでてきます。この点を配慮して提供されるのが遺伝カウンセリングです。

➤ **遺伝カウンセリングでは何を行うのか？**

おもに以下の5つを行います。

- ①本人や家族の病歴から家系図を作り疾患の遺伝に関して話し合う。
- ②対象となる疾患の情報提供(診断や検査の情報、本やネットの知識資源・患者会などの社会資源の情報)する。
- ③本人や家族の心理的社会的状況に対する支援し、自らの判断に基づいた選択ができるようにする。
- ④遺伝子関連検査についての説明。
- ⑤必要であれば臨床心理師による面談と支援。

➤ **遺伝子関連検査についての遺伝カウンセリングとは？**

遺伝子関連検査の対象となる病気について説明をし、家族にそれに関係する病気がないかどうか確認します。次に検査によりわかることとわからないことの情報を提供し、また検査で得られる情報は血縁者と共有することの意味を説明することになります。これらの説明を受けた後に、検査を受ける本人が取りうる選択肢やその選択肢が与える影響を理解できたかを確認します。そして本人が検査を受けるか受けないか、中断するかを決めていく手助けをする場となります。また、その判断をすることによって生じる不安や心の葛藤についても状況に応じて対応していきます。